

第 311 回 IEC 研究会
(情報コミュニケーション学会第 12 回情報教育合同研究会の
ワークショップ 2 として実施) 議事録

日時：2016 年 11 月 19 日 (土) 10:00～11:50

場所：園田学園女子大学 開学 30 周年記念館 4 階 情報教育センター

司会：石川

書記：西本

出席：中西、石川、河野、高橋、田中、西野、西本

(他 WS への出席で本 WS には欠席)：広田

(午後の全体講演等からの出席)：阿濱、加藤

欠席 (届出あり)：中村 (洲)、宮野、矢島、安谷、米田

情報コミュニケーション学会 第 12 回情報教育合同研究会

<http://www.cis.gr.jp/conf.html>

ワークショップ「情報リテラシー教育担当者が知っておくべきデザインリテラシー」概要

1. 石川先生からワークショップの企画意図についてと講師紹介

ワークショップの企画意図について：

情報リテラシー教育の担当者は必ずしもデザインについて学んでいない

中教審答申→児童生徒による自己評価や相互評価、その際の評価基準はどのようにすべきか考える必要性

講師紹介：

森友令子先生、大阪国際大学グローバルビジネス学部グローバルビジネス学科

ご専門は芸術諸学・芸術一般、美学、デザイン学、感性情報学、デザイナー経験もおあり

2. 教科書にある課題例の検討

呈示された課題例 (Word で架空の喫茶店宣伝チラシを作成する) の「評価軸」を自分ならどのように設定するか？

WS 参加者に各自、自分なら課題採点のときにはどのような「評価軸」を設定するか、考えてもらい、提出

提出された内容を前方スクリーンに投射して、どのような内容 (項目) が見られるか共有

3. 実際に課題例の課題を Word で作成してみる

15～20分程度で、参加者が自ら学生になったつもりで、提示された課題例の課題 Word チラシを作成してみる（会場教室の端末利用）

時間の関係上、作成した「課題」の相互評価、共有はしなかった

4. 課題例について WS 講師による講評

デザインの専門家であるワークショップ講師による課題例の講評：

「喫茶店」の要件が具体的に明らかにされていない（例：駅中なのか等）→それらによってどういうデザインにするか全く変わってくる

実際のデザイン業務では、ポスターに（課題例にあるような）「ワードアート使用」「ページ罫線使用」という条件を付けて作ることはまずない

学生にはまず、ポスターの「企画書」を作らせるべき

評価軸は、誰が見てもわかる項目内容であるべき

5. 情報リテラシー教育担当者が知っておくべきデザインリテラシー

引き続き WS 講師による講義

「伝える」と「伝わる」は違う、まずは作成者の個性や独自性を出すというよりも、“きれいなもの”を作ることが重要

- ・誰のためのもの

- ・何のため

- ・どこでどんな状況下で見るか→重要それでどういうデザインにするか変わってくる

読みやすさ 見やすさ わかりやすさ→可読性 視認性 誘目性

課題を評価するときの“距離”→そもそも、ポスターは貼って見られるものであるから、評価する際には、離れて確認するべき

配色について注意すべきこと→モニター上で確認しながら作成するが、実際に印刷して確認することが必要（カラーモニターで見えていても、モノクロ印刷すると見えなくなることも）

6. 質疑応答

WS 講師と WS 参加者の間で、活発な質疑応答および意見交換がなされた。

最後に、WS 講師の森友先生からひとこと：

学会プレゼンスライドや、プリントなどで「見えない」「読めない」というのがあったらメモして事例を蓄積しておくとな参考になる。

最後に、WS 企画者の石川先生から補足：

教科書も頑張っている（多少デザインの要素に言及しているものもある）

『社会と情報』（日本文教出版）